

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0991300138		
法人名	社会福祉法人 京福会		
事業所名	グループホーム安暮里みしまの家		
所在地	那須塩原市東三島1-104-223		
自己評価作成日	平成27年2月 6日	評価結果市町村受理日	平成27年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年2月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名入居定員の、小規模なグループホームですが、小規模ならではのアットホームな雰囲気
を最大限の利点とし、入居者がゆったりと落ち着いて生活できる環境づくりが出来るよう努めています。
特別変わった介護や援助を行っているわけではありませんが、入居者様が安心して且つ安全に過ごせる生活環境を、法人の理念である「人としての生命・人としての生活」が
あたりまえに行える場所として、みしまの家が存在できればと考えております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、東北東部の自然豊かな地域にあり、国道4号も近く利便性の良い閑静な住宅地の一角に位置して
いる。介護の固定観念にとらわれることなく、より良いケアができるよう柔軟な考えを取り入れ運営に当たっている。
「入居者様が自分らしく安心して暮らせる家であること」という事業所の基本理念の下、終の棲家として、利用者がで
きるだけ家庭に近い環境で安心して生活できるよう日々の支援に努めている。近隣の公園への花見や紅葉狩りド
ライブなどの外出の他、楽器演奏や舞踊などのボランティアの受け入れや併設する小規模多機能ホームと合同の
小運動会、クリスマス会や豆まきなどの季節感のある行事など、毎月のレクリエーションを企画し楽しんでいる。また、職員は各々の得意分野を活かし、季節の装飾作りや誕生日には手作りのパースデーケーキを準備するなど、
家庭的な環境作りにも力を入れている。職員のスキルアップにも力を入れており、研修の参加や資格取得をサポートして
いる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面 がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事 業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした 表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけてい る (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔 軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所の基本理念「入居者様が自分らしく安心して暮せる家であること」という事を念頭に置き継続した援助が行えるよう努めている。	法人理念である「人としての生命・人としての生活」を念頭に職員は日々の支援にあたっている。また、安心して暮らしていける生活の場である『家』であることを大切に、事業所独自の理念をつくり、利用者の生活向上に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	項目の状況には至っていないのが現実。事業所全体が施設内の利用者様の援助のみに目が向いてしまい、地域にまで意識が向かない様子。実現できるように要検討。	自治会に加入しており、運営推進会議で地域の情報を得ている。今年度は利用者の体調不良や入れ替わりが続き、地域へ出向いての行事参加は困難であったが、散歩時にあいさつを交わす事もあり、事業所に琴演奏や踊りなどのボランティアを招き地域交流に努めた。	自治会に加入しているが、市広報誌の回覧や地域活動などの情報・交流が少ない現状であり、自治会との関係作りに努め、広報誌回覧や地域活動参加などに繋がるよう、事業所側からの働きかけに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践は不十分。今後の検討項目。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員・地域包括支援センター職員・地域住民(民生委員・自治会長)・参加が可能なご家族・当事業所職員からなる運営推進会議であるが、特に地域住民からの忌憚ない意見を多くいただけており、サービスの向上に生かせるよう努めている。	併設の小規模多機能型施設と合同で、市職員・地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員のほか、全家族に通知を出し参加可能な家族の参加により開催し制度や施設の状況・活動報告が中心となっている。事業所のPR法などのアドバイスをもらい参考にしている。	議題内容の検討や固定メンバー以外にも議題に合わせた人選を工夫し、より多くの意見を得られ、サービス向上に活かせるよう、今後の取り組みに期待したい。また、地域住民の会議参加を通し地域との関係を密にし、双方向的な関係が築けるよう努めたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	制度上の不明点やその他運営上の疑問点など、随時市職員に連絡し、そのつど答えていただけている。今後も協力関係を築けていけるよう努めていきたい。	制度改正や各種お知らせなどについては市高齢福祉課からのメールで確認している。その他、各種手続き更新等は市役所訪問時や運営推進会議での来訪時などを通し、担当者とは随時連携が取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に開放的な空間、環境づくりを行っており、日中は施錠はしていない。行動を束縛する対応はしておらず、当然身体拘束も行っていない。今年度は法人全体の取り組みとして、各事業所の学習会で学習している。	玄関は日中施錠せず、出入りも自由である。職員は常に利用者の居場所の確認に気を配り、言葉かけの工夫や見守りを行うことで、安全を確保しつつ自由で圧迫感のないケアに努めている。身体拘束についての内部研修を開催し、職員が身体拘束について学ぶ機会を設け実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会などを行い、職員間の意志の疎通を図り、虐待についての知識を共有し、虐待防止に努めている。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後学習会などで行えるよう検討していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事業所側としては十分な説明を行い、同意はいただいていると認識している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様や御家族のご意見・ご要望については随時話し合い対応している。また年度末に全体会議を行い今後の運営に反映できるよう検討している。	意見箱の設置や運営推進会議に意見・要望を伺う他、毎月の利用料支払い時に家族と対話する時間を設けている。日頃から話しやすい雰囲気作りに留意し、出された意見は運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や全体会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会が設けられるよう努めている。	職員からの提案は毎月のミーティングや日頃の業務の中でその都度話し合い、運営や日々の支援に取り入れている。また、年度末の全体会議やアンケートなどを通し職員が意見を表す機会を設けている。今後は個人面談も行う予定である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自が向上心を持って働けるよう心がけているが、今後職員のモチベーションを向上させる方法については検討が必要かと考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・同法人内の学習会を中心に能力の向上を図っている。また必要に応じた研修がいただけるよう今後検討していく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の同業種間での勉強会や話し合いがある。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用前に調査を行い利用者様の思いや意向の把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用前に調査を行い御家族の思いや意向の把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、利用者様の日常生活上「何が不十分か、何が困っているのか」を把握し、そのことを最優先に考えたケア・支援を行えるような利用形態を考えて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の希望に可能な限り応えようと努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様・家族それぞれの要望をうまく伝え合いながら支えあっているよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	当事業所の利用が始まって、これまでの生活に支障が生じないよう外出や外泊などを薦めることで、社会生活から孤立しないように努めている。	外出時や自宅への外泊時に合わせた親戚や友人との再会、また、友人・知人の来訪など、これまでの交流が途切れないよう支援している。針仕事や畑作業など、今までの生活習慣や趣味の継続ができるよう可能な範囲の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居しともに生活していくと自然と入居者様同士の友好関係等が構築されてくるため、その入居者様同士の関係を崩すことのないように、職員は必要な距離を保っている。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが停止している状況の利用者様に対して、サービス再開の意向を確認し、サービス終了となった		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用前に調査を行い入居者様の思いや意向の把握に努めている。また、ご利用が開始になった後も随時意向の把握が出来るよう努めている。	利用前に生活歴などの聞き取りを行い意向の把握に努めている。また、普段の暮らしの中での観察を通し、会話や表情、行動など、いつもと違った様子が見られるときなどはタイミングをみて声かけし、さりげなく真意を確認するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用前に調査を行い生活歴等の情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様個人個人の状況に応じた一日の過ごし方が提供できているかどうか疑問。現在再検討が必要かと考える。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の現状を把握し、よりよい生活を営めるには？と言う事を念頭に置いた介護計画が立案できるようカンファレンスを開催している。	主治医や家族の意見も取り入れ、介護職員、看護師、管理者でカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。3ヶ月に一度の定期的な見直しと、変化があればその都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践、結果を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しています。状況に応じた介護計画の見直しは必要である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援は現在難しいところがあり、今後の課題。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が心身の力を発揮しながら安全で豊かな生活が出来るように努めています。現在入居後、施設内での生活で完結している方が多く再検討が必要。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様、ご家族の希望を大切に、かかりつけ医の適切な医療を受けられるよう努めています。またご家族の希望を含んで検査などが受けられるよう連携を行っている。	主治医は入居前に協力医へ変更している。居宅療養管理指導の利用により、病院・家族と連携をとりながら健康管理に努めている。眼科や歯科・耳鼻咽喉科・整形外科などへの通院は家族に付き添いをお願いしている。今後訪問歯科を検討している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化や異常に対する方向漏れがあった。連携や情報共有の難しさを感じるが最新の状況把握に努めるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を行い、退院後の生活も検討した方向で行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、重度化された利用者様はいないが、今後このような状況におかれた場合は速やかに関係職員と御家族・ご利用者様間で話し合い、よりよい支援が出来るように検討していく。	終末期や重度化した場合の対応について、入居前に家族と話し合っている。医療ニーズが高まった時点で、同法人の特別養護老人ホームの紹介も行っている。看取りの指針は作成しており、家族の希望があれば、今後は看取りも視野に入れ、指針に沿った対応ができるよう検討段階である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	吸引処置が必要な場面があった。対応に苦慮することがあった。急変時の連絡等を再度確認し、実践できるよう努める。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震・水害の災害時に昼夜を問わず、利用者様が避難できる方法を身につけるよう努める。避難訓練は昨年12月実施。	併設の小規模多機能型施設と合同で、消防立会いの下、日中夜間想定消防避難訓練を年2回行っている。訓練時に課題が見えた部分に関しては今後の対応を検討している。職員の緊急連絡網がある。また新緊急通報システムの導入を検討中である。	夜間想定消防避難訓練実施の際、様々な課題が見えたことで、今後の災害対策として、現段階での安全な避難方法の検討や職員の意識付けなどの取り組みに期待したい。また、備蓄の確保に努めた。

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけてはいるが今後も職員の意識の向上が必要かと考える。	「親しき仲にも礼儀あり」を基本とし、職員は丁寧な言葉かけや態度・姿勢を大切に支援にあたっている。職員の接遇研修なども今後検討している。個人情報施錠できる場所に保管し管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	身体状況等により満足できる要望に必ずしもこたえられていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所側で決めた日課の流れが中心になっており、職員側優先になってしまっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自ら着る衣類を選んでいただき、決して職員側の押し付けにならないように心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を業者に依頼している為、メニューは決まってしまう。下膳等可能な方には手伝ってもらっている。また行事等には業者の配達をキャンセルして寿司などを提供している。	献立や食材は宅配業者を利用し、調理は職員が行っている。刻み食など利用者の状態に合わせた食事の他、個々の好みに合わせ可能なものは対応している。また、お寿司やラーメン、お弁当、ケーキなど行事食を楽しめる工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量を把握し、記録として残し、状況を把握している。また検食記録をつけ、どのようなメニューが好評なのかわかるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お茶うがいや口腔洗浄剤を使い、殺菌・口臭予防に努めている。		

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを活かしてトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を使用し個々の排泄パターンを把握している。自立を尊重しており、タイミングを見ての声かけや、転倒防止の付き添い介助など、個々の身体機能に応じたサポートに留め、残存機能の維持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排泄パターンを活かし、また利用者様に聞き取りを行うなどをし、排便の状況を知る。ただし、現在便秘予防に対して内服薬での対応が多いようで、もう少し工夫が必要と考える。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	現在入浴時間を午後にて対応している。曜日は限定してはいるが、職員主導になってしまっているところがある。	週3回午後の入浴を基本としている。その日の健康状態や本人の思いを考慮しつつ、入浴回数などは可能な範囲で対応している。拒否のある方も声掛けを工夫し入浴できるよう支援している。ゆず湯や入浴剤を使用し、季節や入浴が楽しめるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休めるような環境で支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の状況に応じて服薬管理を行っている。症状の変化にも気をつけ服薬していただいている。ただし、服薬の内容の理解までは職員間で理解度がばらばらなのが今後の課題。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事や催しを企画するだけでなく、入居者様の生活歴や能力を活かして支援が出来るようにしていきたい。現在のところ不十分な対応となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様の体力的な状況等で日常的な支援は難しい状態であった。	紅葉狩りなどの遠足のほか、敷地内や近隣住宅地の散歩など、体調や気候に合わせて外出の機会を設けるように努めている。また、敷地内の草むしりや畑作り、中庭で採れた柿を干し柿にするなど、希望に合わせて日常的な戸外での活動を取り入れている。	

グループホーム安暮里みしまの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として、小遣い程度のお金を事業所側で預かっている入居者様があり、ご希望に応じて対応している。(近所のスーパーまで買い物に行く。等)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を送ってくるご家族への返信を職員が手伝い投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、花を飾ったり、現在は加湿器を設置して湿度保全に努めたりして、安全且つ居心地のよいような環境づくりに努めている。	食堂は吹き抜けで天窓があり、明るく暖かい空間となっている。加湿器を使用し、温度湿度が適度に保たれるよう配慮している。玄関横の居間にはソファとテレビが設置され自由に寛ぐことができる。4ヶ所あるトイレは、各居室から最短距離となるよう動線が工夫された配置となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの場所に関しては居室があり、居室空間＝自宅となっている。応接間を設置しており、個人でテレビを見たり、ご家族との談話に利用している入居者様がいらっしゃる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	前項目でも触れたが、居室＝自宅となりそれぞれ私物を持参することで入居者様個人個人特有の空間になっている。	各部屋ごとに腰壁のある部屋や壁紙のデザインなどを替えている。ベッド・エアコン・洗面台・防災カーテン・加湿器・湿度計が備え付けてある。その他、筆筒・布団・こたつ・椅子・テーブル・家族の写真や遺影・装飾品など持ち込みは自由であり、個人個人が馴染みの物に囲まれた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自主的に掃除をしたり、庭の草むしりをする入居者様がいらっしゃる。今後は入居者様の生活暦などを参考に、無理に薦めるのではなく、自主的に事由に行える環境づくりが出来るように努める。		